

磨こう！地域の宝
創ろう！みんなのふるさと

躍動 薩摩川内

薩摩川内市長 岩切秀雄

令和2年の新春を迎え、謹んで新年のお祝詞を申し上げます。

昨年、台風・豪雨などによる自然災害が全国各地で発生しました。川内川を有する私たちにとって、平成18年の大水害を改めて想起させるものであります。多くの尊い命が奪われ、住民の大切な財産などが一瞬にして失われました。ここに改めて哀悼の意を表しますとともに、一日も早い被災地の復興を心よりご祈念申し上げます。

さて、昨年の主な出来事につきましては、次ページ以降にも掲載しておりますが、まず防災関係については1月に、平成18年の鹿児島県北部豪雨災害を受け、本市上流部の鶴田ダムの治水機能を強化するため、12年の歳月をかけ施工されてきた「鶴田ダム再開発事業」が完成しました。この事業により、ダムの洪水調節容量が拡充され、川内川流域の安全性は格段に向上しました。

また10月には船間島・久見崎地区で「川内川高潮対策事業」が、11月には「天辰第二地区まちづくり一体型引堤事業」が着工しました。今後も、市民の安全・安心の確保のため災害対策などに万全を期してまいります。

文化関係については、3月に「川内大綱引」が国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財「薩摩川内の大綱引き」として選択されました。また、5月には、入来麓・里麓・手打麓の3カ所を含む「薩摩の武士が生きた町」武家屋敷群「麗」を歩く「が日本遺産として認定され、11月には「甌島のトシドン保存会」が「硫黄島のメンドン」悪石島のボゼ」の両保存会とともに、第70回南日本文化賞の特別賞を受賞しました。いずれも地域の方々が永く守ってきた貴重な伝統行事や文化財であります。関係者の意向も踏まえながら、未永く保存・継承ができるよう支援してまいります。

スポーツ関係については、7月に、全国高等学校総合体育大会「南部九州総体」が開幕し、本市ではバスケットボール競技が実施され、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が試合を観戦されました。また、国体に向けたリハーサル大会として、9月にホッケー、11月にはウエイトリフティングの社会人大会が開催されました。

社会資本整備については、11月に川内港の港湾計画が30年ぶりに改訂され、唐浜埠頭に水深12メートルの水深岸壁などの計画が位置付けられました。川内港の整備は市勢発展にとって欠かせないものであると考えており、早期着工に向け国への働きかけを強化してまいります。

また、蘭牟田瀬戸架橋の建設についてもいよいよ最終段階であります。10月に決定した「甌島地域一体化方針」に基づき、甌島の振興発展と島民の一体感醸成に取り組んでまいります。

さて、今年はいよいよ10月に「燃ゆる感動がごしま国体」が開催されます。また、9月には「全国市町村交流レガッタ」も川内川で開催され、多くの選手や大会関係者、観客の来訪が期待さ

れます。本番に向け、官民一体となりさらなる機運の醸成と、おもてなし体制の充実を図ります。その他、女性活躍の推進、働き方改革、農林漁業の六次産業化、次世代エネルギー、健康・福祉、教育などの施策についても引き続き総合的に推進してまいります。

なお、川内駅東口のコンベンション施設の整備・運営事業につきましては、令和3年1月の供用開始に向け諸手続きを進めます。

人口減少、少子・高齢化、人手不足など厳しい状況もありますが、長期的展望をもって少子化対策に取り組むとともに、交流人口の拡大などにより、人口減少による経済活動の縮小を補っていく必要があります。

地域の市民、事業者の皆さまの叡智を結集し、若い世代や次世代の子どもたちに、活気ある「みんなのふるさと」躍動 薩摩川内」を引き継いでいくべく、全力を傾注してまいります。

最後に、市政全般にわたりまして、今年も皆さまの格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。併せて、皆さまにとりまして幸多き一年となりますようご祈念申し上げ、新年の挨拶いたします。



令和元年

Satsumasendai Topics 2019

主な出来事

このコーナーでは、昨年1月から12月までにあった主な出来事を、抜粋して掲載します。



Topic 02

重要港湾川内港30年ぶりの港湾計画改訂

11月29日、重要港湾川内港港湾計画改訂が策定されました。港湾計画改訂は、港湾管理者である県が平成元年度に行って以来30年ぶりの改訂となります。

本市においては、川内港長期構想の物流産業面の基本方針「国際物流拠点として産業を振興する港づくり」を達成するため、川内港地域活性化協議会などを設立し、港の整備促進を図るための取り組みを推進しています。



Topic 01

東郷小・中学校が惜しまれながら閉校 東郷学園義務教育学校が開校

3月、東郷小学校および東郷中学校で閉校式があり在校生、卒業生、地域住民、保護者、教職員が母校との別れを惜しまました。

また、4月には、小・中学校の9年間の義務教育を一貫して行う本市初の義務教育学校として、閉校した各学校の伝統を引き継ぎ、東郷学園義務教育学校が開校。教職員の乗り入れ授業や教科担任制などの取り組みにより、さらなる学力の向上が期待されます。教室の床や壁材には市産材のスギが使用されており、木の香りや温もりに包まれた学習環境となっています。



Topic 03

子育てに優しいまちづくり 新たな事業開始

乳幼児を抱える保護者の子育てを支援する取り組みの一環として、外出中に授乳やおむつ替えのために立ち寄ることができる施設を「赤ちゃんの駅」として登録開始しました。現在市内41カ所(R1.12.6 現在)の登録があり、登録施設には専用ステッカーが表示されています。また、市内開催のイベント用に「移動式赤ちゃんの駅」の貸し出しも行っています。さらに、第3子以降の子どもを妊娠された方に支給される「第3子以降妊娠祝金」も事業開始しました。

Topic 04

若い力が集結した全国高校総体 2020年は国体・オリンピックキヤー



南部九州を舞台に、令和初の全国高校総合体育大会が開催されました。

サンアリーナでバスケットボール競技が行われ、本市からは県代表として川内高校男子チーム、れいめい高校女子チームが出場。地元での大会とあって会場内は大いに盛り上がりました。同大会では秋篠宮皇嗣同妃両殿下が競技をご覧になられ、高校生たちの躍動が、今年のごしま国体と東京オリンピックへ向け弾みを付ける大会となりました。